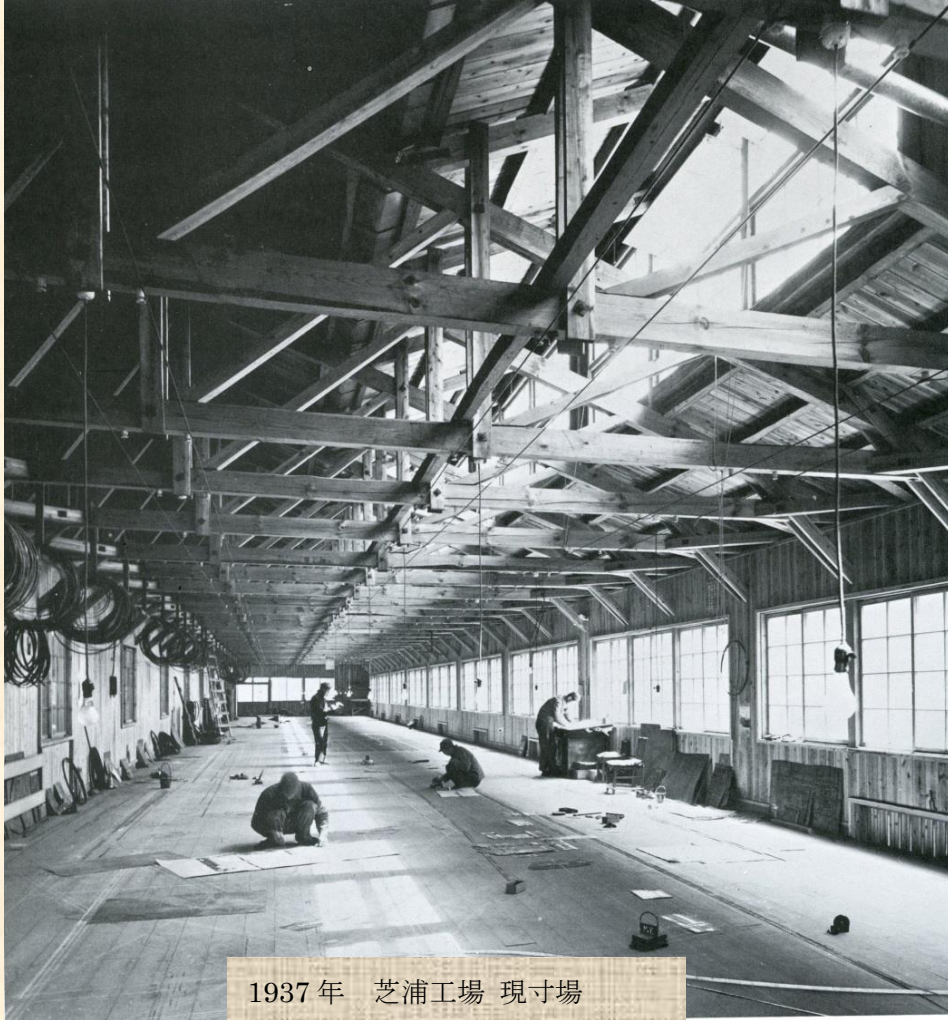


現寸場の思い出

此の度の社名変更を機に、「100年のあゆみ」を見返してみました。
懐かしい写真が色々載って居ましたが、中に、私が3歳の頃の洋式木造の
現寸場の写真が有りました。
内景は、私が入社した時（昭和25年）と変わらず、其の儘でした。



1937年 芝浦工場 現寸場

入社した当時の私の仕事は、床面の掃除、機械職場の水道から水をバケツで
2階の流し台に運ぶのが始まりで、冬は石炭運び、後は雑用でした。

覚えている最初の工事の名は「浅草寺」で、テープ持ち（先き手）をやり、
あちこち振り廻されたのを覚えています。

初めの1年か2年は仕事を教えて貰えず、凶面も見せて貰えませんでした。
（刀鍛冶の「炭切り3年、向こう槌3年」には及びませんけれどね…。）

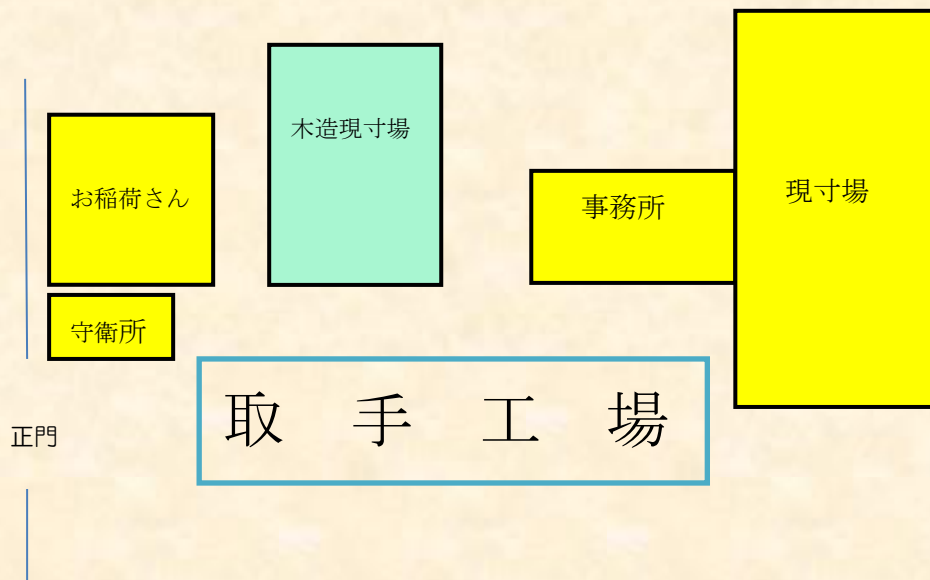
戦時中、現寸場のそばに焼夷弾が落ちたそうですが、素早く消し止められて
難を逃れたとのこと。

もし直撃を受けて居たら、自分の人生、ごろっと変わって居た事でしょう。

よく先輩に、「よそに居た時に、アスファルト道路や野積みの鉄板に現寸を書いていた」と聞かされ、現寸場が無事で良かったなと思いました。

のちに、芝浦工場の木造現寸場は解体され、取手工場のお稲荷さんのそば（今の研究棟辺り）に移築されました。

取手工場に出張の折りに見て、懐かしく思ったのを覚えています。



昭和47年、芝浦工場から取手工場に大移動した時には、木造の建物は無くなって居て、現在の鉄骨造りの研究棟・事務所・現寸場が出来て居ました。色々見ていると、芝浦時代や取手工場の頃を思い出させてくれます。



現寸場わきの運河で、だるま船の石炭屑から出火して、2階から放水しようとしたが、うまく行かず、1階のガス職場からの放水で消火されました。放水慣れした1階の連中には、敵いませんでした。

取手のグラウンドで消火器訓練を受けていたので、町会の訓練で消防士に「慣れていますね」と云われ、何事もリハーサル、訓練が大事だと思いました。



夏、建設中は海風が入り、「現寸場は天国だなあ」と云われていたのが、完成後は窓から入った風が天井上部に拡散するのか、無風に成り、物凄く暑くて水をガブ飲みしていました。

「取手工場への移転に対しての要望」に、故 川上正三君が「エアコンの設置、一点」と云ってくれたのを鮮明に覚えています。

次の写真に写っている人物が誰だか覚えていませんが、私は見物側で、主役には成れませんでした。



1962年 芝浦工場 現寸作業中



1964年 取手工場 現寸場

定規（シナイ）、型板、角つぼ、文鎮、パイスケ（竹かご）、などが見られます。

よく、こんな道具で仕事をして居たものだと、今では思います。博物館でパイスケを見ましたが、型板の切屑を処理するのに便利でした。今でも、作られて居るのでしょうか。



1991年 取手工場 現寸場
(横浜ランドマークタワーの現寸検査中)

横浜ランドマークタワーの現寸には携われませんでした。高さを、中央の屈折した所の柱内部展開を依頼され、模型の現寸を手がけさせて貰いました。当社が主導で進めていて、他3社が打合せ及び模型の見学に来社していて、写真を撮っていました。

余談になりますが、私は戦時中、栃木県塩原に集団疎開をしていて無事でしたが、母は町工場が集中していた白金三光町で被災しました。

高輪・白金と住所を変えていて、此の辺りの土地勘が有りますが、アメリカの爆撃は空中写真によるものが正確で、キリスト教系の学校で明治学院、宮様（高松宮、北白川宮、竹田宮）や大使館、泉岳寺などの有名な寺院等を避けて、焼夷弾を落としていました。

当社は鉄の会社なので、本社事務所・現寸場の燃える所を狙ったのが、ちょっと外れて助かったのではないかと思います。

私が入社をする前、先輩の方々は「仕事の無い時に、釘なども作っていた」と云っていました。

こういう時代でしたので、もし現寸場が無事でなかったら、大半の社員の方に影響したのではないかと思います。

母からの話ですと、焼夷弾は油が飛び散り、すぐ火が付くそうです。
家の近くに落ちた時、「焼夷弾、落下！！」の声を聴き、訓練通りに飛び出して
行ったのですが誰も出てこず、町会長は深川のひどい被害を見ていて、早々に
逃げたと聞いています。

母も、慌てて逃げたそうです。

戦後、私は焼夷弾が畑に刺さっているのを見ました。

断面10cmぐらいの六角形、長さ1mぐらいの鉄製でした。

私が「100年のあゆみ」を見返したと書いたのを読んで、「80年史」や過去
に発行された社史を見返してくれる方が居てくだされば、幸いです。

平成29年8月21日

村田 隆 生

注1：文中にある「浅草寺」とは、本堂（観音堂）のことです。

浅草寺本堂（観音堂）は、1951年（昭和26年）に清水建設より
請負い、1958年（昭和33年）に再建されました。

注2：1950年（昭和25年）頃の本社・芝浦工場には、大通りに面して
木造2階建ての建物が3棟ありました。

本社事務所1棟と現寸場2棟です。

後に、事務所に隣接していた現寸場1棟が取手工場に移築されました。

